

第12回決済システムフォーラム資料

---

# 新日銀ネット構築による 決済インフラの可能性の広がり

2009年10月6日

# 1. 新日銀ネットの基本コンセプト

---

➤ 新システムによる当座預金・国債決済関連業務が2015年度を目途に移動開始。

① 最新の情報処理技術の採用

② 変化に対して柔軟性の高いシステムの構築

③ アクセス利便性の向上

— 電文形式や通信プロトコルの変換の効率性の向上を検討。

— XML、国際標準コード、新たなCPU接続方式の採用も考え得る。

— 稼動時間の大幅拡大が可能となるシステム基盤を整備。

## 2. 稼働時間拡大①

### ➤各国の中央銀行システムの稼働時間

国・地域	システム	稼働時間帯 <sup>1</sup>	稼働時間 <sup>1</sup>			
日本	日銀ネット（当預系）	当日 9:00～19:00	10 時間			
	日銀ネット（国債系）	当日 9:00～16:30	7 時間 30 分			
米国	Fed Wire（資金）	前日 21:00～当日 18:30	21 時間 30 分			
	Fed Wire（証券）	当日 8:30～15:30	7 時間			
欧州	TARGET 2	夜間セッション <sup>2</sup> <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td rowspan="2" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td>前日 19:30～22:00</td> </tr> <tr> <td>当日 1:00～6:45</td> </tr> </table> 昼間セッション 当日 7:00～18:00	}	前日 19:30～22:00	当日 1:00～6:45	19 時間 15 分
	}	前日 19:30～22:00				
当日 1:00～6:45						
	TARGET 2-Securities <sup>3</sup>	前日 19:30～当日 3:00 当日 5:15～18:00	20 時間 15 分			
スイス	SIC	前日 17:00～当日 16:15	23 時間 15 分			
英国	CHAPS	当日 6:00～16:20	10 時間 20 分			
ニュージーランド	ESAS	当日 9:00～翌日 8:30	23 時間 30 分			

（注） 1. 参加者間の振替が行われ得る時間を記載。

2. TARGET2 の夜間セッションにおいては、証券決済システム、ペイメント・システムの決済のみが行われる。

3. 2013 年に稼働開始予定。稼働時間帯は 2008 年 7 月時点の計画。

## 2. 稼働時間拡大②

---

### ➤ 考え得る朝方・夕刻のニーズ

#### ① 内為取引、短期金融市場

- ・朝方のコール取引、内為取引。
- ・夕刻の有担コール、T+0レポ取引。

#### ② 外為取引、海外の決済インフラとの連携

#### ③ 国債系の決済時間拡大

#### ④ 緊急時対応

- ・国内におけるシステム障害・災害、国際的な危機への対応。

## 2. 稼働時間拡大③

---

- 更なる可能性を踏まえた拡大の具体的なニーズはあるか？
- ・グローバルに活動する金融機関に対するより柔軟な資金流動性の供給
- ・非居住者による円関連証券取引の決済の一層の円滑化
- ・海外決済システム等との連携
- ・当日の外為決済(例えば、ロンドンで朝約定する円取引の即日決済への対応)
- ・夜間の先日付入力
- ・夜間・早朝処理を活用した決済の平準化・効率化

## 2. 稼働時間拡大④

---

➤ 一方で、

- ・各業態・金融機関等によるニーズの違い
- ・稼働時間拡大に伴うシステム対応負担、労務負担
- ・他の決済インフラの運行スケジュールへの影響

⇒ 具体的な稼働時間は、今後の決済インフラの新たな可能性を展望しつつ、市場の決済ニーズや、必要な事務処理態勢等に関する市場参加者のご意見も踏まえて、検討。

### 3. 接続性(interoperability)の改善

---

- 他の証券決済インフラとの接続を可能とすることにより、国債決済におけるSTP化の一層の進展への寄与も展望できる。
  - ・国債の決済照合システム/清算システム/決済システム
- その他、電文形式や通信プロトコルの変換の効率性向上により、内外の決済システムや金融機関との接続性を改善することも考えられる。